

【徳島県板野町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』において、個に応じた指導を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも日本型学校教育において重視されてきた「協働的な学び」とを一体的に充実することが求められている。

現在、GIGAスクール構想により学校のICT環境が急速に整備されており、令和の時代における学校のスタンダードとして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために、端末を文房具のように日常的に活用することや、クラウドサービスの利用、対面と遠隔・オンライン教育とを使いこなすなど、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、教育の質の向上につなげていく。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想を実現するため、令和2年度に「高速大容量の通信ネットワーク環境」と、「1人1台端末」を小中学校に整備し、これらの活用を円滑に開始するために、ドリル教材や授業支援ソフト等の導入、Wi-Fi環境がない家庭でも持ち帰り学習ができるようモバイルWi-Fiルーターを導入した。

また、令和4年度には更なるICT教育の向上を目指し、2名のICT支援員の任用や、教室にある大型提示装置に端末の画面をミラーリングできるようにApple TVの整備や、ペンを用いての端末活用ができるようにタッチペンを整備した。

このように、学校や家庭でのICT機器を積極的に活用できる環境を整えてきたが、ICT機器を活用する頻度が増えてきたことによって、落下等による端末の故障や、教職員が新しい環境になかなか馴染めないなどの課題が出てきた。

これらの課題を解決するために、1人1台端末の更新の際には、十分な予備機を整備していくとともに、教育委員会とICT支援員が連携を密にすることで、教職員のスキル向上や不安を解消し、児童生徒が安全・安心に学ぶことができるよう、ICTを活用した授業の改善に向けて進めていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

「1人1台端末の積極的活用」

ソフトウェアや周辺機器等、児童生徒が端末を文房具のように利用できる環境を整えていく。その上で、学校における教職員や児童生徒のICT活用をサポートするために、ICT支援員を引き続き配置し、1人1台端末の活用を促進する。

「個別最適・協働的な学びの充実」

端末を調べ学習に用いるだけでなく、自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む際にも活用する。

また、自分の考えをまとめて発表・表現する場面や、教職員と児童生徒のやりとり、児童生徒同士がやりとりする場面において、授業支援ソフトやGoogle Classroomなどのツールを用い、積極的に端末を活用することで、個別最適・協働的な学びの充実を図る。

「学びの保障」

不登校や体調不良等で欠席した希望する児童生徒に対して、対面授業とオンライン授業を兼ねた授業を展開することにより、授業への参加・視聴の機会を提供する。

また、外国人児童生徒に対して、端末を活用することにより、特性・学習進度等に合わせた、個に応じた学習活動や課題に取り組む機会を確保していく。

以上の取り組みを実施するために、端末の活用が必要不可欠であるため、端末の整備・更新により、1人1台端末環境を引き続き維持していく。